

曳舟地域における 3 歳児を受け入れる保育園不足について

東向島在住 2 児の母

第一子

- ・ A 保育園（1～2 歳児クラス）
 - ・ B 幼稚園（葛飾区にあり、3 歳児クラスにあたる年少より入園し在園中）
- A 保育園は基本的に 2 歳児クラスまでで 3 歳児は他の保育園または幼稚園へ転園を求められるため、3 歳児クラスへの転園ができなかったときのリスクを回避し、18 時まで延長保育のある葛飾区の幼稚園へ入園させた。

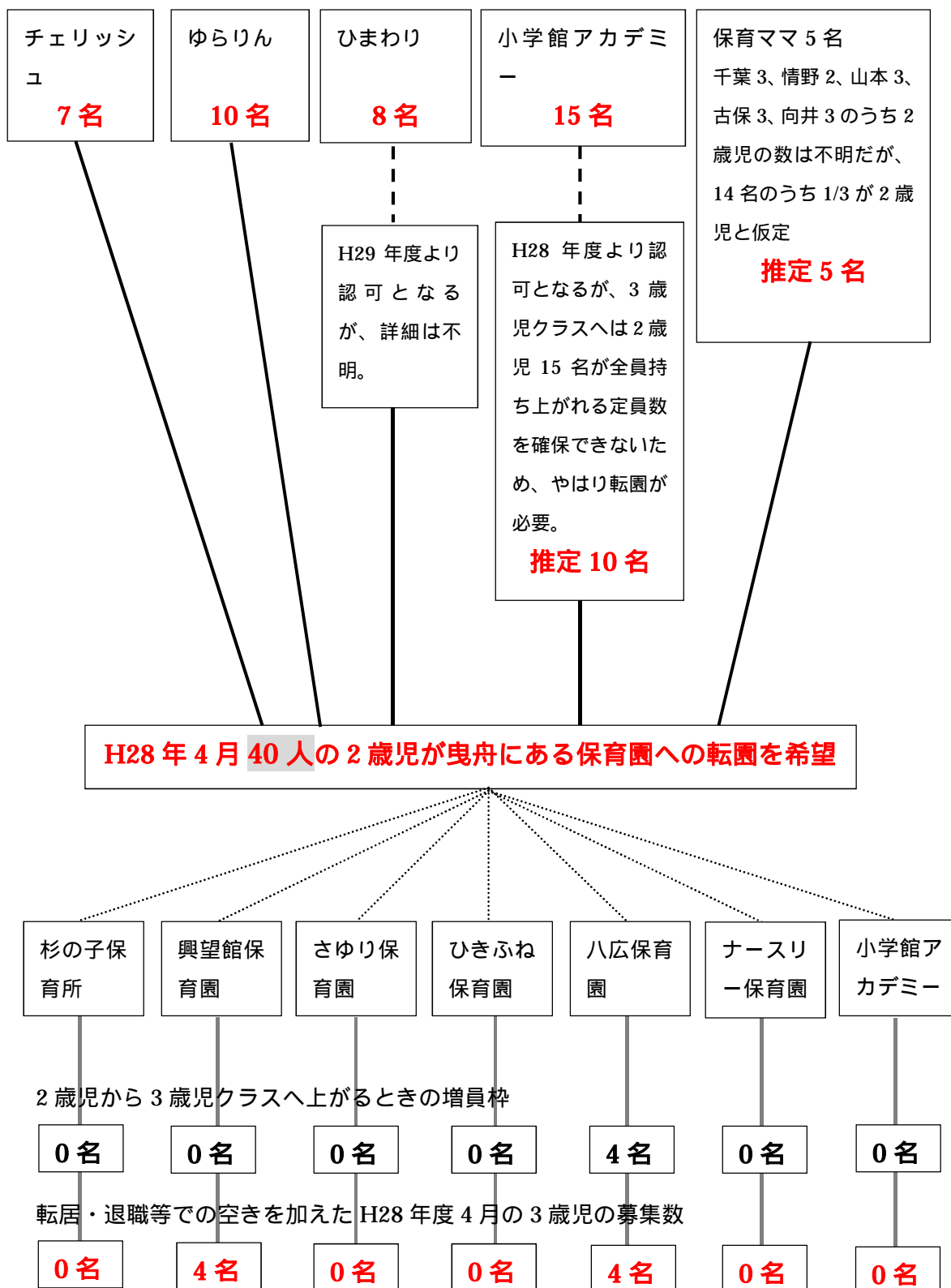
第二子

- ・ チェリッシュ曳舟保育園（H27 年 4 月より 0 歳児クラス在園中）
- 2 歳児までの保育園のため、再び 3 歳児転園の恐怖を抱きながらの通園となっている。

今年 1 月にも意見書を提出いたしましたが、何の返答もなく、「 に連絡を頼んだ」などと他人任せに扱われたことに憤りを覚えました。役所の方にとってはただの事務処理にすぎないのでしょうか、こちらは必死です。現状をきちんと把握して対処していただきたく、再び意見書を提出させていただきます。

第二子は第 4 希望の保育園に入園することができましたが、2 歳までの園のため、入園してから常に転園のことが気にかかり、9 月に入園係の方にお話を伺ってきました。お話によると、H28 年度の 1 歳児クラスの転園は難しく、H30 年度の 3 歳児クラス進級のときの方が可能性は高いとのことでした。今回、H28 年度の申込案内をいただき、4 月の募集数を確認したところ、仮にわが子が今年 2 歳児クラスを卒園しなければならない学年だった場合、やはりとても転園できそうにない数の空きしかない危機的状況でした。転園のことを考えると、H28 年度 4 月の 1 歳児クラスでなければ空きは存在しないと感じました。よって、再び意見書を提出させていただきます。区の HP より「墨田区保育所等整備計画」は読ませていただきました。保育園を認定こども園化することにより一見 3 歳児の受け入れ枠を広げていくように見えたが、保育部門の受け入れ数はかなり限られることになると思われ、意味のあることなのかわかりませんでした。また、曳舟や東向島地域での保育所の運営事業者を募集するなどしてくださっていることに感謝はしますが、現実問題、早く開園に至らなければこちらは間に合いません。

曳舟地域における2歳児までの保育園の2歳児園児数



なぜ、空きが8名分しかない?????

問題提起

1) 曳舟地域で2歳児までの園が集中しているため40名の2歳児が行き場を失うのに対し、そもそものキャパシティとして2歳から3歳児に進級する際の増員枠を持っている園が八広保育園の4名のみというのはいかなるものか。

2) 転勤等での空きも興望館保育園のたった1園のみしかない。3月末で非常に動きがあるような地域ならともかく、そうでないにもかかわらず、区としてはこの空きを狙えというのであろうか。

3) H28年度4月には小学館アカデミーが、H29年度4月にはひまわり保育園が認証から認可になるが、2歳児までの保育園の園児がこれだけいるからには、3歳児からの増員枠を周辺の保育園に持たせるか、3歳～5歳児のみの保育園を新設しない限り、問題は解決しないのではないか。

4) 保育入園係の方は、認可保育園で2歳までしかない園は認証保育園よりも加点されるので第7希望まで書けばなんとかなると思うと答えているが、そもそも第7希望とは行きたい園なのか疑問である。入れなくては困るが、どこでもいいわけではない。前頁で曳舟周辺の保育園を7つあげているが、これを書いたら興望館保育園か八広保育園に入れるというのか。

5) 上記4の入園係の方に具体的には小規模認可のチェリッシュ曳舟保育園と保育ママの12名には7点の加点がつくので、その他の園児よりは確かに有利であると言われたが、そもそも曳舟周辺地域で8人の空きしかないのであれば、加点の意味がない。

6) 上記5に続くが、同じく小規模認可のチェリッシュ保育園と保育ママの12名には連携保育園という制度があり、それぞれの施設、保育ママごとに3園ずつ優先的に入れる園が決まっている。しかし、やはりその施設に空きがなければ、入れないことに変わりはない。具体的に話すと、チェリッシュ保育園は「興望館保育園」「ひきふね保育園」「杉の子学園保育所」の3園が提携だが、このうち空いているのは「興望館保育園」の4名のみである。7名がチェリッシュから出るが、「興望館保育園」と連携の保育ママは千葉さん、古保さん、花島さんと3名もいる。制度が形ばかりで、実を伴っていない。

7) ゆらりん、H28年度のひまわり、小学館アカデミーの園児に至っては、更に厳しい状況と思われる。

8) H28年度4月に小規模保育所「キャリア保育園東向島」もできるが、また2歳児問題が増える。0～1歳児の待機児童が多く、その対策をしているのはわかるが、2歳までの園を増やすにあたっては、3歳児になったときのフォローをきちんと考えるべきではないのか。

墨田区のこども園は両国幼稚園1つのみで、そこにあぶれたら現実的には延長保育のある幼稚園へ入れるしかないと思われる。上の子はA保育園に2歳までいた後、保育園からは「ここは3歳児以上の子供を預かる環境ではない」とはっきり言われ、葛飾区のB幼稚園へ通園している。ここは18時まで延長保育があり、夏休みと冬休みは9時～15時半までではあるが、預かり保育がある。しかし、仕事をしている人が利用するにはやはり無理があり、春休みは新学期準備のために預かり保育はないし、台風などの予報があると、実際にはさほど雨風が強くなく進路が反れても休園となる。インフルエンザなどの流行病も本人がかかっていなくても、家族の中にかかった者がいれば休まなければならない。その他にも保育園と異なり、運動会やお遊戯会など土曜日に登園することがあれば月曜日は振替休日、開校記念日、都民の日など休みが多いし、午前保育のみの日や延長保育が実施されない日、そもそも夏休みなどの長期休暇が長いなど、共稼ぎ世帯にはやはり難しい。

上の子の入園のときには墨田区内で延長保育がある園が全くなかったため、墨田区に園バスが来るB幼稚園を選んだが、延長保育をしたら帰りは毎日、荒川と新中川を自転車で渡って迎えに行かねばならない。それも負担である。決して好きでやっているわけではなく、2歳で保育園を終了するにあたって、周辺保育園の3歳児の枠が少なすぎて、入れる気が全くしなかったため、10月末の時点で保育園への転園をあきらめ、延長保育のある幼稚園を探し11月1日に願書を提出した。2月中旬の保育園の発表まで待っていたら、延長保育のある幼稚園には入れない。前日の昼間から願書を提出するために並ばなければならないほど人気があるためである。

以前、入園係に電話した際、なぜ曳舟に3歳からの保育園がこんなにも少ないのかと尋ねたら「曳舟は3歳から幼稚園に入れる方がいるので」と言われたが、保育園がないからリスク回避のために仕方なく延長のある園を選択したに過ぎない。望んで幼稚園へ通わせているわけではないことをしっかり知ってほしいと思う。

また、2歳児を40名想定としているが、その中には引っ越し人もいると思われる。ただ、その引っ越し人の中には、やはり3歳で転園できる可能性が低いから他の地域へ転出していく人がいることを忘れてほしくない。幼稚園にするか、引っ越すか、このような選択を保護者にさせて、役所はそれで問題解決とするのはどうなのだろうか。

今回、下の子ども2歳までの園にしか入ることができず、再び同じ道が待っている。それを回避するため、今年も転園の書類を提出し、早く安心したいが、入園係の方の話だと、加点がないので難しいという。H28年度もH29年度も難しいといわれて転園できなければ、H30年度の3歳児になるときに希望をかけることになるだろうが、3歳からの枠が十分になれば、入れない。「連携保育園に必ず入れることを保障するものではありません」とあるが、保障してくれずに入れなかった場合、どうしろというのか。なぜ毎年苦しまなければならないのか。

3歳児クラスの増設を切に願います。

以上

2015年11月11日